

岡田利規 ショーケース

第一部
『瀕死の白鳥』 『瀕死の白鳥 その死の真相』



Photo : Dance Base Yokohama ©Naoshi HATORI

出演：酒井はな / 四家卯大(チェロ)



©Kikuko Usuyama

第二部 トーク 岡田利規 × 坂本もも

国内外の現代演劇のトップを走る演劇作家の岡田利規に若手プロデューサーの坂本ももが聞く、今の日本の演劇をどう思うか？次世代への関心、日本の最先端の現代演劇について…。

出演：岡田利規 (チェルフィッチュ)
坂本もも (範中遊泳/ロロ)



2024年12月15日(日)

開演：14:00 (13:00開場)

会場：桜美林芸術文化ホール内
ストーンズホール

料金：一般2,000円 / 学生1,000円

※定員200名 (全席自由)

※学生料金は6歳から25歳

※障がいをお持ちの方1名につき
付き添いの方1名無料

※未就学児入場不可

主催：桜美林芸術文化ホール
協力：町田市

第一部『瀕死の白鳥』『瀕死の白鳥 その死の真相』について

日本を代表するバレエダンサー酒井はなによる『瀕死の白鳥』オリジナル版と、岡田利規演出、酒井はなと四家卯大のチェロによる、白鳥が自身の死因を踊りながら語る『瀕死の白鳥 その死の真相』を連続して上演する。酒井はなが演劇作家の岡田利規と取り組んだ新解釈バージョン『瀕死の白鳥 その死の真相』は、白鳥の死因に迫ることでバレエの様式を解体し、現代のパフォーミングアーツの新たな局面を切り開く。

『瀕死の白鳥』

ミハイル・フォーキン原型 酒井はな改訂

出演:酒井はな・四家卯大(チェロ)

音楽:サン＝サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」

『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付:岡田利規

出演:酒井はな・四家卯大(チェロ)

音楽:サン＝サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」よりアレンジ

初演:2021年10月(愛知県芸術劇場)・「ダンスの系譜学」にて
コンセプト/構成/プロデュース:唐津絵理(愛知県芸術劇場/DaBY)



酒井はな Hana Sakai

舞踊家。クラシック・バレエを畑佐俊明に師事。橘バレエ学校、牧阿佐美バレエ団を経て、1997年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。2013年ユニットAltneuとして島地保武との共同創作を本格始動。芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞特別賞、舞踊芸術賞など受賞歴多数。2017年紫綬褒章受章

©Tomohide Ikeya



岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家、小説家、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰。チェルフィッチュでは2007年に『三月の5日間』で海外進出を果たして以降、世界90都市以上で上演。様々な分野のアーティストとの協働を積極的に行うほか、2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出を継続的に務めている。

©Kikuko Usuyama



四家卯大 Udai Shika

ロック、ポップス、ジャズ、クラシック、即興音楽と多彩なジャンルで活躍する土俗的チェリスト。日本の商業音楽界を支えるトップ・ストリングスアレンジャーの一人。2019年にバッハの無伴奏チェロ組曲に挑戦した「たいようの谷」をリリース。

*以上3名はDaBYゲストアーティスト



坂本もも Momo Sakamoto

合同会社範宙遊泳代表・プロデューサー/ロロ制作

学生劇団から商業演劇まで幅広く、制作協力や演出部などを経験。演出助手や制作助手を経て、2009年～ロロ、2011年～範宙遊泳で劇団運営と公演制作を務める。特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)理事。一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク(JAPSN)理事。多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科非常勤講師。

舞台監督:守山真利恵

制作:齊藤実雪(桜美林芸術文化ホール)

制作・技術協力:愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama

企画協力:株式会社precog

申込Googleフォーム→



<お問合せ・お申込>

桜美林芸術文化ホール

〒194-0032 東京都町田市本町田2600-4

電話:042-739-0071(平日10時~16時)

<交通アクセス> JR・小田急線「町田駅」から神奈川中央交通バス「町田バスセンター」(4番・5番のりば)から「山崎団地行」または「山崎団地センター行」乗車約20分「山崎団地センター」下車。バス停より徒歩5分。 ※公共交通機関をご利用ください。

